

## 報告事項（2） CSOの開発効果に関する本邦NGOの動き

### 【議題提案者氏名、所属】

氏名：大橋 正明

所属：特定非営利活動法人 国際協力NGO センター（JANIC）

### 【議題内容】

2011年に韓国・釜山で開催された「第4回援助効果向上に関するハイレベル・フォーラム<sup>1)</sup>」以降における、CSOの開発効果に関する本邦NGOの動きを報告する。

#### 1) 「イスタンブール原則<sup>2)</sup>」普及のための研修会開催と啓発パンフレットの作成

2012年度外務省主催NGO研究会を活用し、「イスタンブール原則」の普及にむけた研修を開催するとともに、開発効果に関する啓発パンフレットを作成した。

#### 2) 国際基準の日本での普及

イスタンブール原則、JANICの実施する「アカウンタビリティ・セルフチェック<sup>3)</sup>（ASC）」と合わせて、下記の国際基準取の日本での普及を、今年度から3年間、集中的に実施する。

- ① HAP 基準：人道支援のアカウンタビリティと支援の質に関する基準
- ② スフィア・スタンダード：人道憲章と人道対応に関する最低基準
- ③ 関連する国際基準：People in Aid、INEE等

以上

---

<sup>1)</sup> 外務省 ウェブサイト <http://www.mofa.go.jp/mofaj/annai/honsho/seimu/nakano/hlf4.html>

<sup>2)</sup> より効果的な活動を実施し貧困削減に資するために、何に注意を払い、どう行動すべきか、延べ100を超える国や地域のCSOが繰り返し議論を交わし、その成果物として、各地での議論を集約した2つの文書『CSOの開発効果にかかるイスタンブール原則』（2010年）と『CSO開発効果に関する国際枠組み』（2011年）がまとめられた。両文書については日本政府からも「我が国が支持している文書」として賛同をいただいている。

<sup>3)</sup> 国際協力NGOセンター ウェブサイト <http://www.janic.org/more/accountability/selfcheck/>